

1 人口

知多地区の2020年の人口は628,495人（2010年比102.2%）、県内シェアは8.3%となっています。

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2045年の地区内の人口は566,226人（2020年比90.1%）に減少すると見込まれています。市町別に見ると、常滑市（同年比101.8%）、東海市（同年比101.6%）、大府市（同年比101.1%）で人口増加の見込みとなっています。

一方、半島先端部の南知多町（同年比52.9%）、美浜町（同年比59.2%）では、大きく人口減少が進むことが見込まれています。

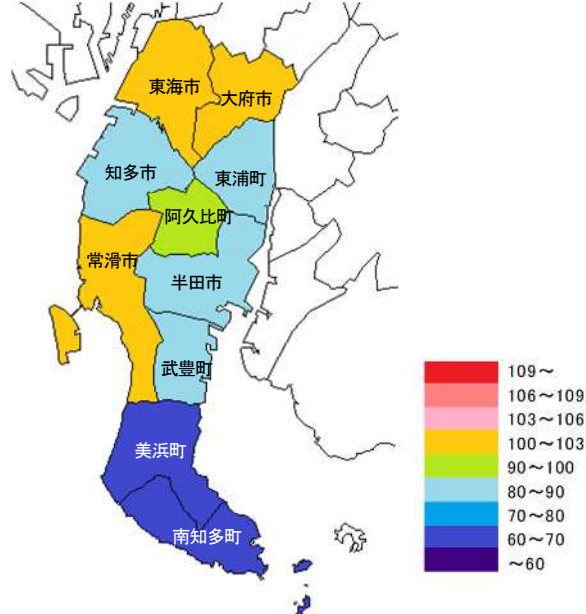
また、2045年時点の高齢化率は、2020年比で+7.4ポイントとなっており、県平均（+7.7ポイント）より増加幅は小さいものの、美浜町（+19.5ポイント）、南知多町（+12.5ポイント）で大きく上昇し、高齢化率が50%を超えることが見込まれています。

■総人口の推移

◇2025年（2020年を100とした比較）



◇2045年（2020年を100とした比較）



	総人口（人）					増減率	
	2010年	2015年	2020年	2025年	2045年	2020年→2025年	2020年→2045年
愛知県	7,410,719	7,483,128	7,542,415	7,455,615	6,899,465	98.8%	91.5%
知多	614,794	620,905	628,495	615,960	566,226	98.0%	90.1%
半田市	118,828	116,908	117,884	111,072	94,852	94.2%	80.5%
常滑市	54,858	56,547	58,710	58,733	59,790	100.0%	101.8%
東海市	107,690	111,944	113,787	116,602	115,612	102.5%	101.6%
大府市	85,249	89,157	93,123	93,634	94,135	100.5%	101.1%
知多市	84,768	84,617	84,364	82,263	72,056	97.5%	85.4%
阿久比町	25,466	27,747	28,383	29,189	28,233	102.8%	99.5%
東浦町	49,800	49,230	49,596	47,727	42,569	96.2%	85.8%
南知多町	20,549	18,707	16,617	15,054	8,790	90.6%	52.9%
美浜町	25,178	23,575	22,496	20,149	13,308	89.6%	59.2%
武豊町	42,408	42,473	43,535	41,537	36,881	95.4%	84.7%

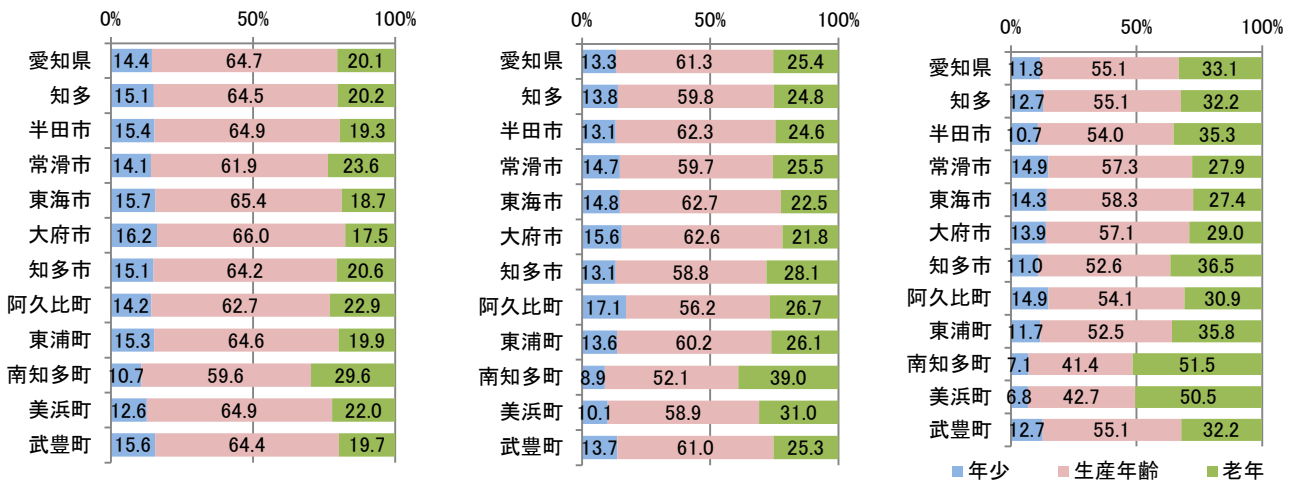
出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年3月推計）」

■年齢三区分別人口割合

2010年

2020年

2045年



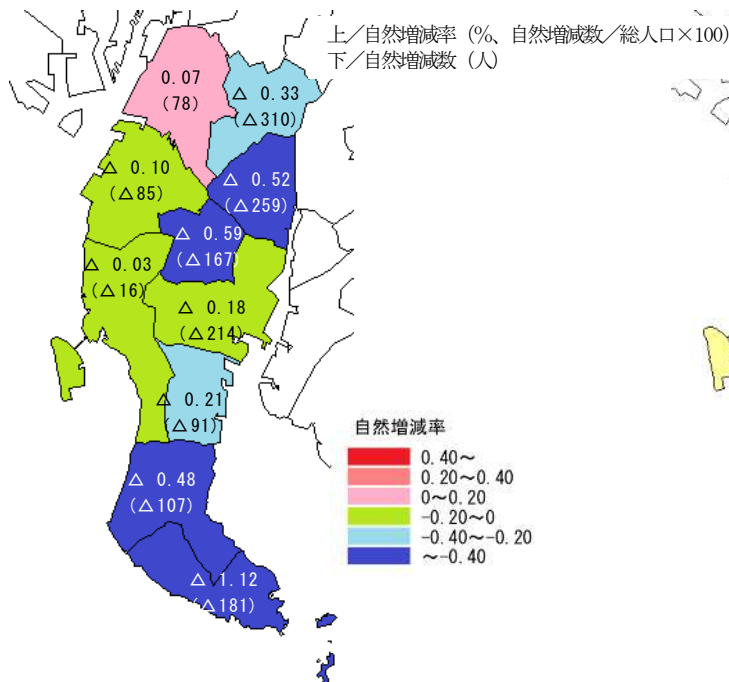
出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年3月推計）」

2 自然増減

知多地区の2021年の自然増減数は1,352人（-0.22%）の減少となっています。市町別に見ると、東海市（+0.07%）でわずかに増加する一方で、南知多町（-1.12%）、阿久比町（-0.59%）では減少幅が大きくなっています。

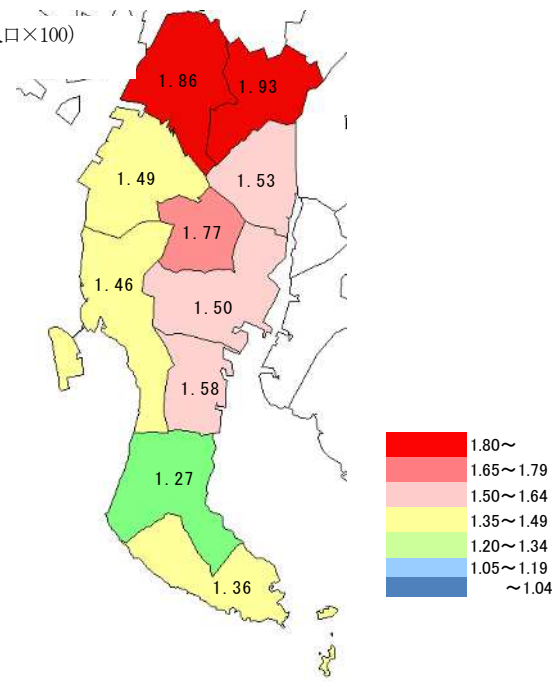
また、合計特殊出生率（2013～2017年）を市町別に見ると、大府市（1.93）、東海市（1.86）で高く、美浜町（1.27）、南知多町（1.36）で低くなっています。

■自然増減の状況（2021年）



出典：厚生労働省「人口動態統計」（2021年）、愛知県「あいちの人口」（2021年）から愛知県政策企画局作成

■合計特殊出生率（2013～2017年）



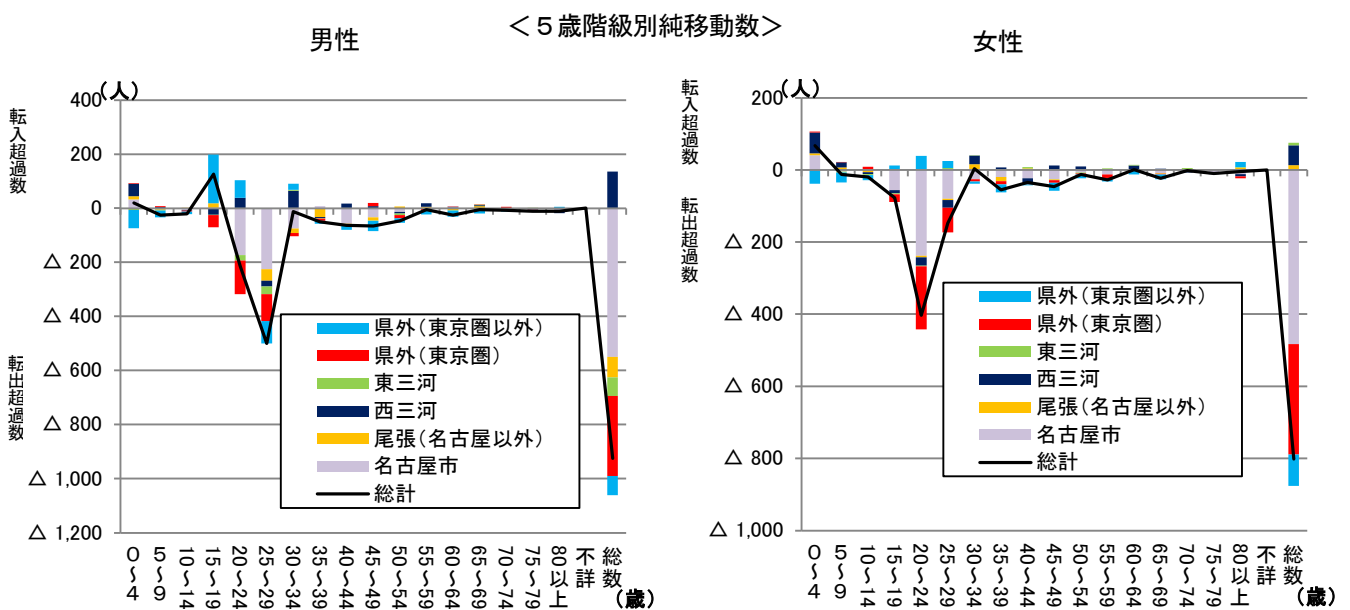
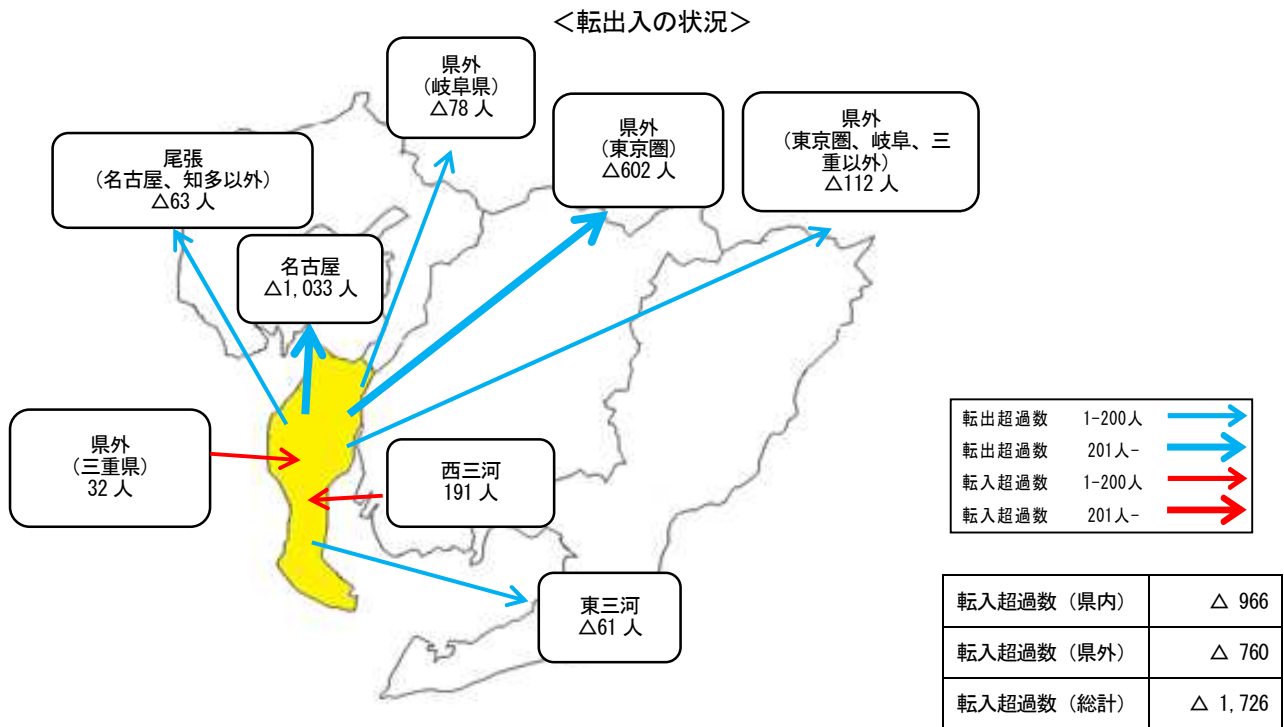
出典：厚生労働省「2013年～2017年人口動態保健所・市区町村別統計の概況」

3 転出入の状況

知多地区の2021年の転出入は、1,726人の転出超過となっています。西三河、三重県に対して転入超過となっています。一方、東京圏、名古屋などに対して転出超過となっています。

男女別に見ると、男性は15～19歳で転入超過となっている一方、男女ともに20～29歳で転出超過が大きくなっています。

■転出入の状況（2021年）



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」（2021年）

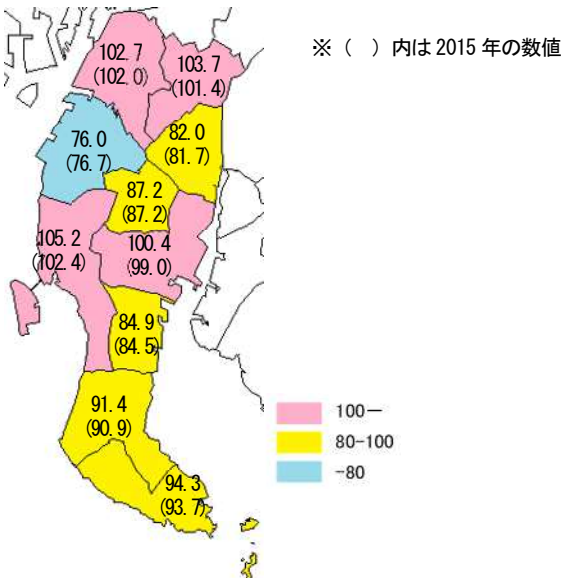
4 昼夜間人口比率、就従比、通学比

知多地区の2020年の昼夜間人口比率^{*}は91.7（2015年比-0.3ポイント）、となっています。

市町別に見ると、昼夜間人口比率は、常滑市（105.2）、大府市（103.7）、東海市（102.7）、半田市（100.4）で100を超えています。従業地・通勤地が他市区町村の割合は、阿久比町（39.2%）、東浦町（38.6%）、知多市（37.1%）、武豊町（34.3%）、大府市（33.8%）、美浜町（32.4%）が高くなっています。

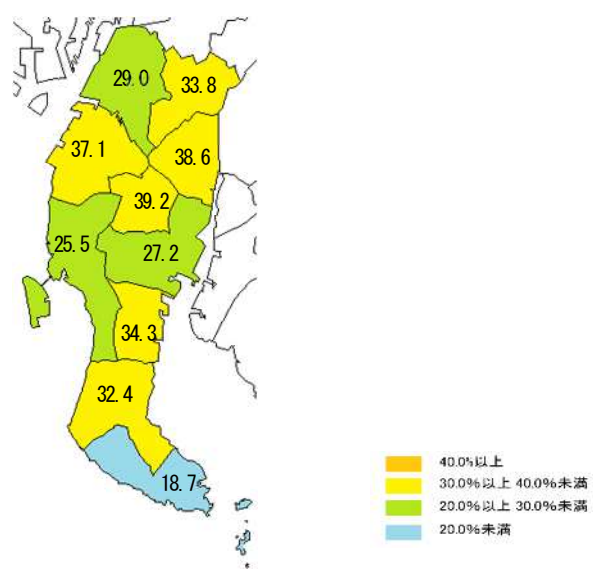
また、当地区では、名古屋市への通勤率が10%を超える市町が多く、東海市（21.4%）、大府市（19.3%）、知多市（17.3%）で高くなっています。

■昼夜間人口比率（2020年）

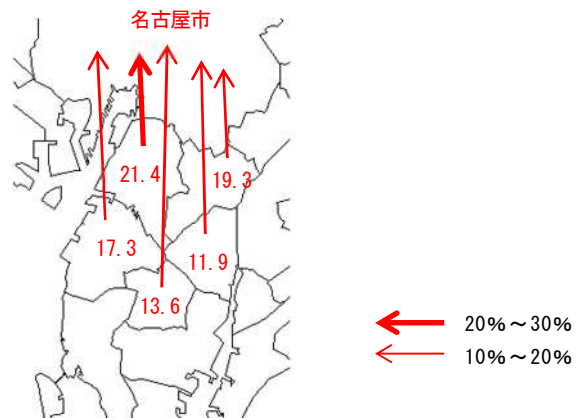


※昼夜間人口比率＝昼間人口／夜間人口（常住人口）×100。
100を下回ると、通勤・通学人口の流出超過を示す。

■従業地・通勤地が「他市区町村」の割合（2020年）



■名古屋市への通勤率（2020年）



出典：総務省「国勢調査」

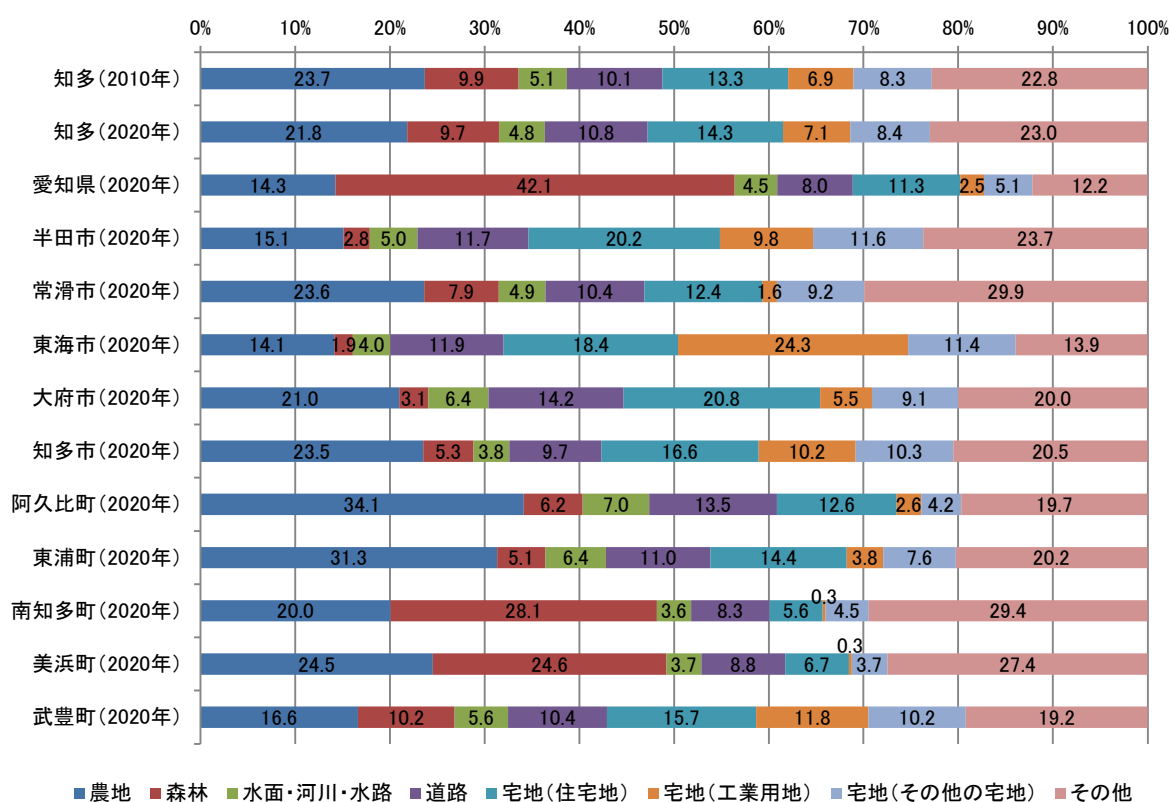
5 土地利用

知多地区の2020年の地目別土地利用状況を見ると、宅地29.8%、農地21.8%、道路10.8%等となっています。宅地の内訳は、住宅地が14.3%、工業用地が7.1%、その他の宅地（商業・業務用地等）が8.4%となっています。

県全体と比較すると、農地（+7.5ポイント）、工業用地（+4.6ポイント）の割合が高くなっています。また、2010年と比較すると、農地（-1.9ポイント）が減少する一方で、住宅地（+1.0ポイント）、道路（+0.7ポイント）が増加しています。

市町別に見ると、阿久比町と東浦町は、農地の割合が高くなっています。また、東海市では、工業用地の割合が高くなっています。

■土地利用の現況



※宅地は住宅地、工業用地、その他の宅地の合計。端数処理の関係上、合計が100にならない場合がある。

出典：愛知県「土地に関する統計年報」

6 産業

(1) 就業構造

知多地区の2020年の就業構造を見ると、第1次産業従事者比率が2.6%（県：2.0%）、第2次産業従事者比率が36.8%（県：32.4%）、第3次産業従事者比率が60.7%（県：65.6%）であり、県平均と比較すると、第2次産業のウェイトが高い就業構造となっています。

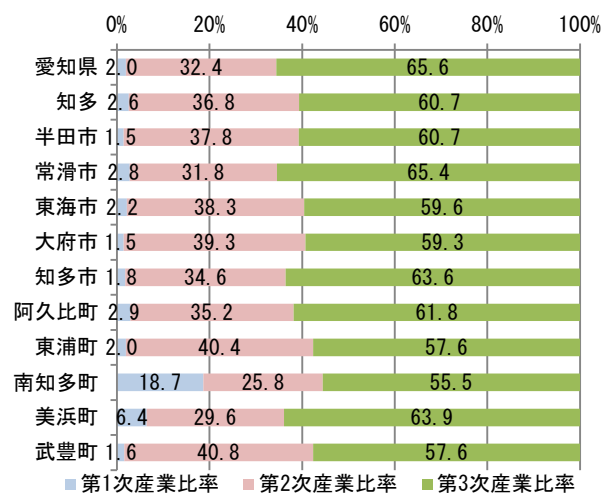
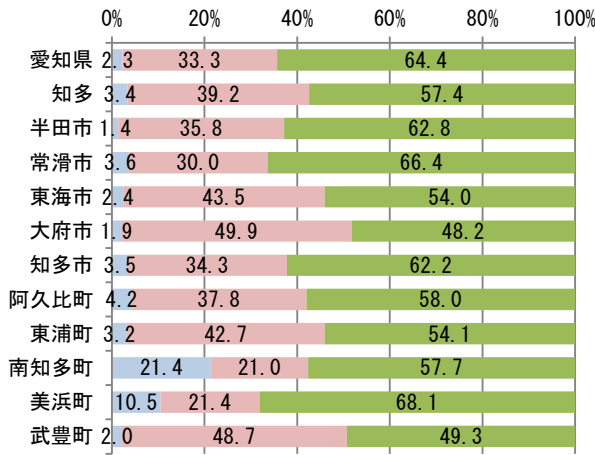
2010年と比較すると、第1次産業従事者比率（-0.8ポイント）、第2次産業従事者比率（-2.4ポイント）の割合が低下し、第3次産業従事者比率（+3.3ポイント）が増加しています。

市町別に見ると、第1次産業従業者は、南部の南知多町（18.7%）、美浜町（6.4%）で県平均を大きく上回っています。2010年と比較すると、大府市では、第2次産業（-10.6ポイント）から第3次産業（+11.1ポイント）への移行が大きく進んでいます。

■産業別従業者割合

2010年

2020年



※端数処理のため計が100とならない場合がある。

出典：総務省「国勢調査」

（2）農林水産業

知多地区の2020年の農業産出額は388.2億円であり、県内シェアは13.4%となっています。農業部門別では、野菜67.3億円、乳用牛65.2億円、鶏44.5億円などが多くなっています。

市町別に見ると、半田市が77.9億円で最も多くなっています。次いで、常滑市56.0億円、美浜町44.0億円となっています。

■農業産出額（2020年）

市町村	農業産出額	内訳（上位3位）		
		野菜	乳用牛	鶏
知多	388.2	67.3	65.2	44.5
半田市	77.9	乳用牛	肉用牛	野菜
		33.0	18.3	5.2
常滑市	56.0	鶏	米	野菜
		15.6	5.8	4.0
東海市	37.4	果実	野菜	米
		17.4	10.9	1.4
大府市	37.2	野菜	乳用牛	果実
		9.8	9.2	5.8
知多市	19.3	野菜	果実	米
		8.7	3.9	3.4

(億円)

市町村	農業産出額	内訳（上位3位）		
		野菜	乳用牛	花き、鶏
阿久比町	24.7	6.0	4.4	4.3
東浦町	21.7	果実	豚	乳用牛
		4.5	3.8	3.4
南知多町	42.3	豚	花き	野菜
		13.4	10.6	10.4
美浜町	44.0	鶏	豚	果実
		12.9	10.3	6.2
武豊町	27.7	鶏	乳用牛	肉用牛
		8.7	7.6	4.0

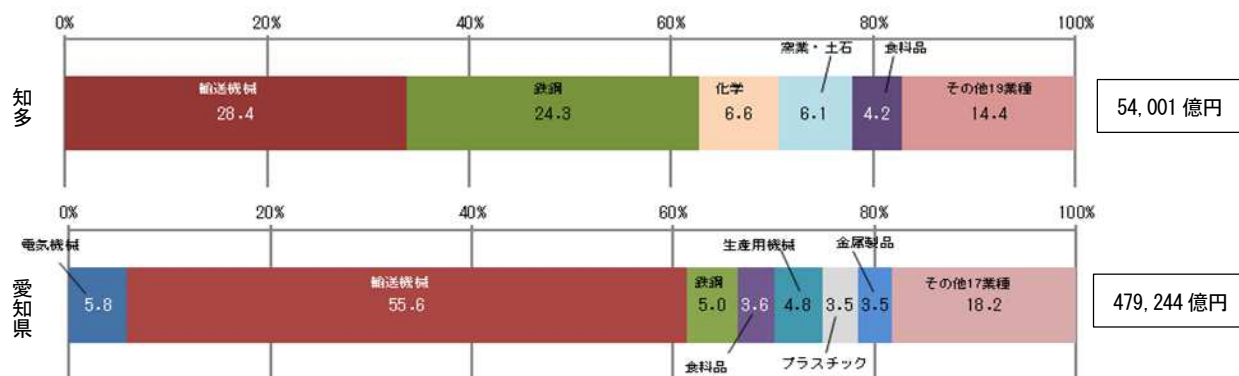
出典：農林水産省「令和2年市町村別農業産出額（推計）
（農業センサス結果等を活用した市町村別農業産出額の推計結果）」

（3）製造業

知多地区の2019年の製造品出荷額等は5兆4,001億円であり、県内シェアは11.3%となっています。産業中分類別の構成比を見ると、輸送機械が28.4%、鉄鋼が24.3%、化学が6.6%などとなっています。地区北東部の臨海部に集積している鉄鋼業は、県内シェアの54.9%を占めています。

市町別に見ると、東海市が1兆4,407億円で最も多く、次いで、大府市が1兆2,528億円、知多市が1兆534億円となっています。

■製造品出荷額等の産業中分類別構成比（2019年）



出典：経済産業省「工業統計調査」（2020年）

■市町別製造品出荷額等（2019年）

	製造品出荷額等（億円）	従業者数（人）	事業所数（事業所）
愛知県	479,244	848,565	15,063
知多	54,001	86,307	1,308
半田市	8,430	18,054	227
常滑市	1,914	6,546	139
東海市	14,407	17,327	217
大府市	12,528	22,601	315
知多市	10,534	3,972	79
阿久比町	958	3,072	24
東浦町	1,726	5,673	116
南知多町	180	1,063	72
美浜町	502	1,104	39
武豊町	2,824	6,895	80

出典：経済産業省「工業統計調査」（2020年）

（4）商業

知多地区の2015年の小売業販売額は5,533億円であり、県内シェアは6.5%となっています。また、顧客吸引力指数※は0.79となっています。

市町別に見ると、小売業販売額は、半田市が1,350億円、次いで東海市が1,057億円と高くなっています。また、顧客吸引力指数は、阿久比町（1.02）、半田市（1.02）が1.00を超えています。

■小売業販売額（2015年）

	小売業販売額（億円）	顧客吸引力指数
知多	5,533	0.79
半田市	1,350	1.02
常滑市	535	0.83
東海市	1,057	0.83
大府市	777	0.76
知多市	435	0.45
阿久比町	326	1.02
東浦町	478	0.86
南知多町	113	0.55
美浜町	168	0.64
武豊町	295	0.61

※顧客吸引力指数：各市町村の人口1人当たりの小売業販売額を県の1人当たりの小売業販売額で除したものの、指数が1.00以上の場合は、買物客を外から引き付け、1.00未満の場合は、外部に流出していることを示す。

出典：経済産業省「商業統計」（2016年）、愛知県「あいちの人口」（2016年）から愛知県政策企画局作成

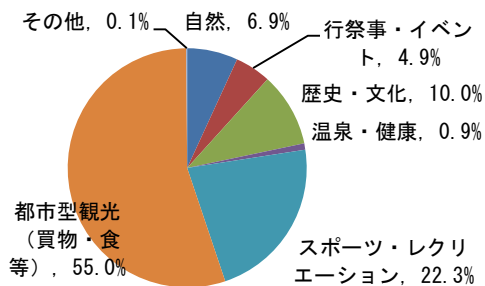
7 観光

知多地区の2021年の観光資源利用者数を区分別に見ると、「都市型観光（買物・食等）」が55.0%で最も割合が多く、次いで「スポーツ・レクリエーション」が22.3%、「歴史・文化」が10.0%となっています。利用者数上位の観光資源は、中部国際空港（年間3,961,000人：常滑市）、めんたいパークとこなめ（年間668,346人：常滑市）、りんくうビーチ（年間：573,480人：常滑市）などとなっています。

また、当地区は、山車まつりなどの歴史・文化に加え、常滑焼や醸造業などの産業観光、酪農体験や果物狩りなどの体験型観光、伊勢湾、三河湾に囲まれた海洋・海岸、離島の豊かな自然など、多様な観光資源を有しています。加えて、市町、観光協会、商工会議所、商工会などが「知多半島観光圏協議会」を設立し、知多半島の広域観光の推進に取り組んでいます。

■観光レクリエーション利用者統計（2021年）

＜施設等区分※別利用者数の割合＞



※観光庁「観光入込客統計に関する共通基準」と同様の区分

＜観光資源（利用者数上位10位）＞ (人)

順位	観光資源名	市町村	利用者数
1	中部国際空港来場者	常滑市	3,961,000
2	めんたいパークとこなめ	常滑市	668,346
3	りんくうビーチ	常滑市	573,480
4	えびせんべいの里	美浜町	407,170
5	野間大坊	美浜町	339,000
6	愛知県国際展示場	常滑市	319,014
7	南知多ビーチランド	美浜町	313,800
8	ジョイフルファーム鶺の池	美浜町	302,991
9	師崎釣り	南知多町	258,312
10	新舞子マリンパーク	知多市	248,619

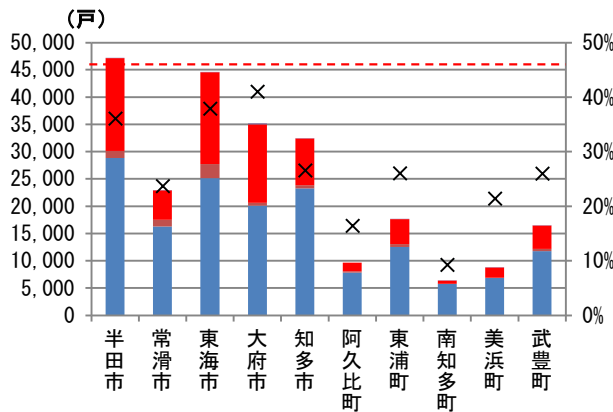
出典：愛知県「観光レクリエーション利用者統計」（2021年）

8 住宅

知多地区の2018年の住宅総数（居住世帯なしの住宅を除く。）を市町別に見ると、半田市が47,220戸で最も多く、次いで、東海市が44,620戸、大府市が35,170戸となっています。また、共同住宅の住宅総数に占める割合は、地区内全市町で県平均（45.8%）を下回っています。

空き家率を見ると、南知多町（21.6%）、美浜町（18.9%）などで県平均（11.3%）を上回っています。

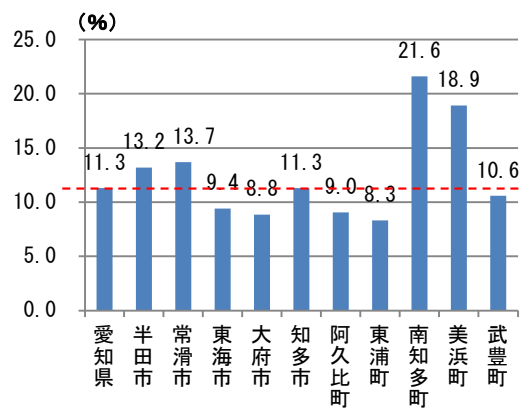
■住宅総数（2018年）



■一戸建 ■長屋建 ■共同住宅 ■その他 ×共同住宅の割合

※赤線は共同住宅の割合の県平均（45.8%）

■空き家率（2018年）



※赤線は空き家率の県平均（11.3%）

※住宅・土地統計調査では、人口15,000人未満の町・村の調査結果が公表されていない。

出典：総務省「住宅・土地統計調査」（2018年）

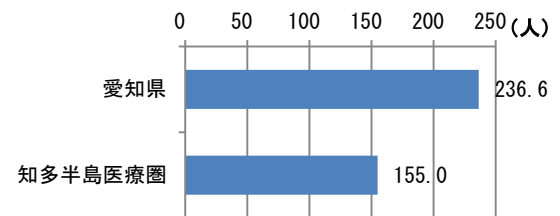
9 医療・福祉

知多地区の2020年の人口10万人当たりの医師数は155.0人であり、県平均（236.6人）を下回っています。

高齢者向け施設について、2020年の65歳以上人口10万人当たりの定員数は4,236人となっており、県平均（4,946人）を下回っています。市町別に見ると、阿久比町が県平均を大きく上回る一方、南知多町、知多市などでは大きく下回っています。

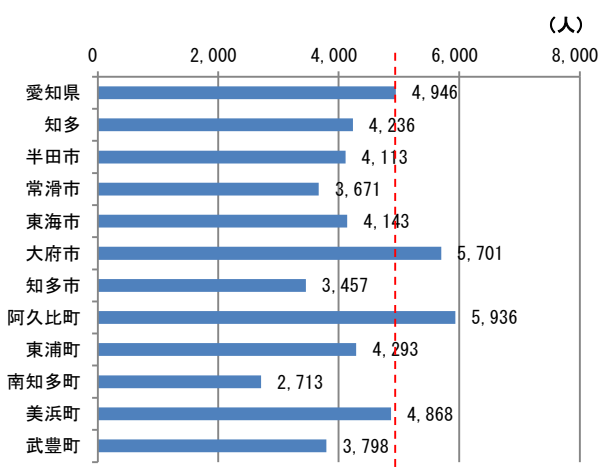
2022年の保育所の定員充足率（利用児童数÷定員）は67.8%となっており、県平均（82.0%）を大きく下回っています。

■人口10万人当たり医師数（2020年）



出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計」（2020年）、総務省「国勢調査」（2020年）から愛知県政策企画局作成

■高齢者向け施設定員数（65歳以上人口10万人当たり）（2020年）

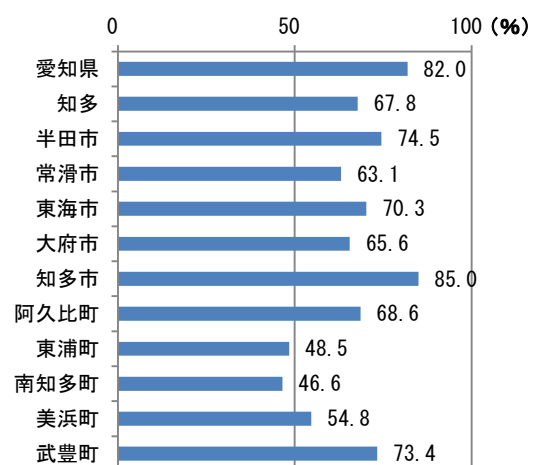


※赤線は県平均（4,946人/10万人）

※高齢者向け施設定員数：養護老人ホーム（一般）、（盲）、軽費老人ホーム（A型）、（B型）、（ケアハウス）、有料老人ホーム、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設の定員数

出典：厚生労働省「保育所等利用待機児童数調査」（2022年）、「社会福祉施設等調査」（2020年）、「介護サービス施設・事業所調査」（2020年）、総務省「国勢調査」（2020年）から愛知県政策企画局作成

■保育所充足率（2022年）



【知多地区における県の主な取組】

当地区は、中部国際空港を擁する中部圏の空の玄関口であり、製造業、農業、水産業などの多様な産業や、豊かな自然や地場産業などを生かした観光資源を有する一方、半島先端地域では、人口減少が進んでいます。県としては、中部国際空港の第二滑走路の整備をはじめ、あいち健康の森周辺での健康長寿関連施設の集積のほか、多様な産業の育成・強化、さらには知多半島の観光圏としての魅力の創造・発信などに取り組んでいます。

（中部国際空港の機能強化・利用促進、MICEの誘致）

スーパー・メガリージョンにおける国際拠点空港としての役割を十分に発揮できるよう、第二滑走路（完全24時間化）の整備をはじめとする機能強化の実現に向けた国等への働きかけを行っています。新型コロナウイルス感染症の影響により運休・減便となっている国際線の早期回復及び航空ネットワークの拡充に取り組んでいます。

また、当地域により多くのMICEを誘致するため、Aichi Sky Expo（愛知県国際展示場）を活用した国内外の大型催事や展示会の誘致に取り組んでいます。



Aichi Sky Expo（愛知県国際展示場）

（健康長寿関連施設の集積、特別支援学校の設置及び重症心身障害児者施設の整備）

あいちオレンジタウン構想のもと、国立長寿医療研究センターとあいち健康プラザとの共同研究をはじめとする産学官連携による認知症予防に関する研究を推進しています。

あいち健康の森とその周辺地区において健康づくりの取組を推進し、地元自治体のウェルネスバレー構想と連携した健康長寿の一大拠点の形成をめざしています。

また、知多地区から聾学校への長時間通学の解消を図るため、2023年度の開校に向けて、東浦高等学校敷地内に千種聾学校ひがしうら校舎の整備を進めています。

さらに、障害者福祉減税基金を活用して民間法人による整備を進めてきた重症心身障害児者施設「重心施設にじいろのいえ」が2022年12月に東海市で開所し、知多半島の拠点施設として医療・療育支援の充実を図っています。



あいちオレンジタウン構想



重心施設にじいろのいえ

（多様な産業の育成・強化）

「あいち健康の森」を中心とした健康長寿関連施設等の集積を生かし、国立長寿医療研究センター内に「あいちサービスロボット実用化支援センター」を設置し、医療・介護等のサービスロボットの実用化に向けた相談やマッチングなどのサポートなどを行っています。

一方、農林水産業については、国家戦略特区の特例措置として農家レストランの農用地区域内への設置を認められ、常滑市では、2018年に農家レストランがオープンするなど、6次産業化の取組が進められています。また、愛知県水産試験場漁業生産研究所では、アサリやノリ等の増養殖技術の開発や魚類等の資源評価・管理技術の開発を行い、漁業生産力の強化・持続可能な水産業の実現をめざしています。



あいちサービスロボット実用化支援センター展示ロボット
（左 移動支援ロボット／右 癒やしロボット）

（知多半島の観光圏としての魅力の創造・発信）

「MIZKAN MUSEUM」や「やきもの散歩道」など、地域の地場産業である醸造業や窯業を生かした産業観光の推進や、山車まつりなどの伝統文化の魅力発信を図っているほか、日間賀島、篠島において、イベントやSNS等を活用した離島の魅力発信や、島に関心を持ち、深く関わり続けてもらえる島外人材と連携した取組など、関係人口の持続化・深化に向けた取組を進めています。

また、2022年には、国際芸術祭「あいち2022」が常滑市を会場の一つとして開催されました。「やきもの散歩道」の旧製陶所やI N A Xライブミュージアムなどで作品が展示され、常滑会場に7万8千人の来場がありました。



アイランダー2022（池袋サンシャインシティ）

（産業や暮らしを支える基盤の整備）

中部国際空港と伊勢湾岸自動車道を直結する西知多道路について、名古屋高速道路を経由して名古屋駅を結ぶ重要な路線であることから、県施行区間である大田 I C、日長 I C～常滑 J C T間の用地取得・工事等を進めると同時に、国施行区間である東海 J C Tと長浦 I C～日長 I C間の整備促進を働きかけています。また、地域内交通の円滑化に向け、都市計画道路の名古屋半田線や瀬戸大府東海線などの整備を進めるとともに、衣浦港臨海地区のモノづくり拠点と西三河地区に広がる生産拠点とのアクセス性向上や地域の主要渋滞箇所の緩和・解消を図るため、一般国道 247 号衣浦大橋左折専用橋等の整備を進めています。

衣浦港においては、バルク貨物の増大に対応するための中央ふ頭西地区のふ頭用地の整備や円滑な港湾物流機能の確保のための臨港道路の整備など、港湾機能の強化を図っています。

さらに、想定される南海トラフ等の巨大地震への対策として、師崎漁港、豊浜漁港及び篠島漁港の防波堤などの耐震・耐津波強化や東浦海岸石浜地区堤防の耐震工事に取り組んでいます。



西知多道路 東海 J C T（イメージ図）



衣浦港中央ふ頭西地区
ふ頭用地整備範囲（赤着色部分）